資料２－３



# 次世代ユネスコ国内委員会 5年間の取組の総括

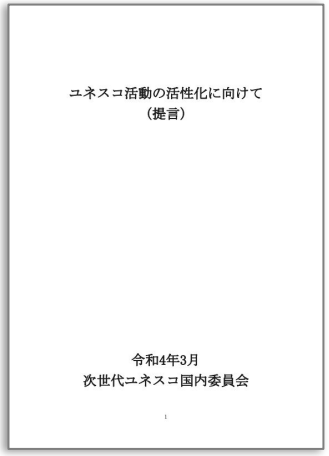
次世代ユネスコ国内委員会 委員長 小林真緒子

2026年9月10日

# 沿革

**2021年度**
・委員会を組織
・「ユネスコ活動の活性化に向けて（提言）」の発表

**2022年度**
・教育・科学・文化ワーキンググループに分かれ提言におけるアクションプランを実行

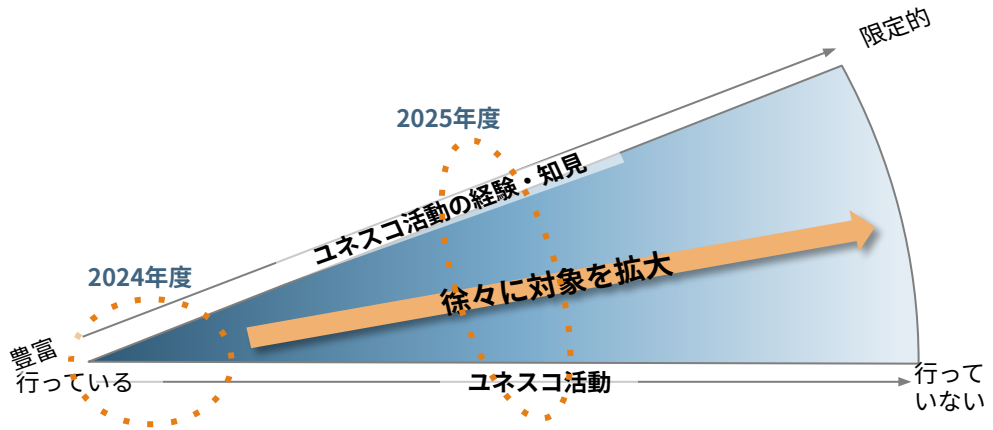



ユネスコ活動の活性化に向けて

**2023年度**
・日本ユネスコ国内委員会運営小委員会の下に正式に設置
・情報発信の本格化と第１回ユースフォーラムの開催

**2024年度**
・既にユネスコ活動を行うユースの連携/活性化
・第２回ユースフォーラム開催

**2025年度**
・更なる裾野拡大と協働活動への発展
・第３回ユースフォーラム開催




ユースフォーラムの中長期的発展イメージ（主ターゲットの設定）

# 5年間で取り組んだこと

ユース同士のつながりを広げるとともに、ユネスコ関連団体との連携、活動の発信、国内外のユネスコ関係会議への参画など、**ユースが継続的に活動するための基盤づくり**に取り組んだ

## ユネスコ活動に参画するユースの裾野の拡大

### ユースフォーラムの開催

ユネスコに関わるユースがつながり、活動への参画を広げる機会を創出
（計**521名**、対面212名オンライン309名が参加）




### Youthnote等による活動の発信

ユースの活動や考えを広く発信し、ユース活動の可視化や、他のユースにとっての活動例を提示（計**50本**の記事を掲載）




**ユネスコ活動への参画層・取組意向層と協働し、参画するユースの裾野拡大を目指した**

## ユネスコ関連団体や、すでにユネスコ活動に取り組むユースとの連携

### 教育WG

ユネスコクラブ等とも連携しながら、オンラインや関西地域でイベントを企画・実施

### 科学WG

ジオパーク全国大会への継続的な参加や、MABユースコミュニティの活性化を実施

### 文化WG

創造都市ネットワークを中心に、関係者との連携やイベント企画を実施

### 国内外の会議/イベントへの参加

国際的な場での意見発信やネットワーク構築
（計**14回**参加）



※活動によってはWGの枠を超えて連携

# 5年間を通して得られた学びや気づき

ユネスコの理念は**身近な実践の中にも存在**し、**各地のユースや多様な実践を世代・地域・分野を越えてつなぐ**ことで、新たな対話や学び、協働が生まれる可能性が見えた



## ユネスコを「自分ごと」として捉える

- ユネスコの理念は、世界規模の活動だけでなく、一人ひとりの日常や地域での実践の中にも存在している
- 教育・科学・文化は互いに切り離されたものではなく、お互いがつながり合いながら世界の持続可能な未来に向かってつながっている



## 地域・分野・世代を越えてつながる

- 各地には「ユネスコ」という言葉を用いているかどうかにかかわらず、その理念につながる活動を実践する若者がいる
- 各地のユースや多様な実践をつなぎ、可視化することで、新たな対話や協働が生まれる可能性がある
- ユース活動を広げていくためには、ユース同士だけでなく、世代・分野を越えて対話し、互いに学びながら試行錯誤することが重要である

## 5年間で十分に取り組めなかったこと

これまで築いてきたつながりを一過性のものにせず、**より多様なユースが継続的に**参画し、
**地域や国境を越えて協働できる仕組みづくり**までは、十分に取り組めなかった

| | |
|---|---|
| **ユースがつながり続ける仕組みづくり** | 一過性の交流に留まらず、活動を共有し、学び合い、共に取り組めるコミュニティをつくること |
| **より多くのユースが活動に「参画」できる環境作り** | 委員以外の若者も企画・運営に参加し、主体的に活動できる機会を増やすこと |
| **地域による機会格差の解消** | ユネスコとの接点が少ない地域や若者にも継続的に情報を届け、多様な地域から参加できる環境を整えること |
| **国境を越えた協働の推進** | 国際的な企画等を通じて海外の若者ともつながる機会を創出すること |

## 振り返って課題に感じたこと（今後の展望）

ネットワークを広げること自体を目的とするのではなく、**何のためにつながるのか**、そのつながりを**どのように活かし、協働や変化につなげていくのか**を明確にする必要がある

| | |
|---|---|
| **ユース参画の目的の明確化** | ユースの参画を広げることで、どのような日本のユネスコ活動を実現したいのか |
| **ネットワークの役割と参加意義の明確化** | ネットワークをどのような活動や協働に生かすのか。また、参加するユースにとって、どのような意義や機会のある場とするのか |
| **ユースと関係団体との協働のあり方** | 世代によって役割を分けるのではなく、ユースを含む多様な世代が対等な一員として主体的に参画し、共に活動をつくるために、どのような姿勢や仕組みが必要か |
| **活動を持続・発展させる基盤づくり** | 築いたネットワークや活動を継続・発展させるために、どのような運営体制や評価の仕組みが必要か（データ管理・メール等対応窓口の検討） |

**ユネスコ日本ユース・ネットワークの実現と発展**

